

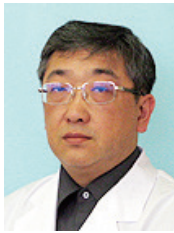
# 形成外科医に聞く

形成外科部長

しのかわ やすお  
篠川 靖夫



## 腱膜性眼瞼下垂症について



### 【眼瞼下垂症（がんけんかすいしょう）】

あごを引いたり挙げたりせずに正面に向いたときに、上まぶたが瞳孔（黒目）の上まで上げられなくなることを眼瞼下垂症といいます。視野が狭くなって生活に支障がある方には治療を受けることをおすすめします。



眼瞼下垂症は先天性と後天性に分類されます。

#### 1) 先天性眼瞼下垂症

当院には小児科・小児科病棟がありませんので、全身麻酔が必要な幼小児の先天性眼瞼下垂症の手術はおこなっておりません。

#### 2) 後天性眼瞼下垂症

「見る機能」の評価は眼科にしかできませんので、最初に受診すべきは眼科ですが、上眼瞼の構造が壊れたことが原因と判断された場合には眼科あるいは形成外科で手術治療をし、神経や筋肉の疾患が原因の場合は主に神経内科で治療をします。

後天性眼瞼下垂症の多くは腱膜性眼瞼下垂と呼ばれるもので、加齢や外力（白内障手術後、コンタクトレンズ長期装用、アトピーで頻繁にまぶたをこするなど）によって上眼瞼挙筋の腱膜が壊れるために生じます。壊れた構造を手術で修復することで視野が改善します。

手術は局所麻酔でおこないます。当科で手術する場合、入院は必要ありませんが、希望がある場合は1泊していただいています。新病院となり環境は極めてよくなっていますので快適に入院していただけたと思います。

手術時間は片側であれば1時間程度、両側の場合は1.5～2時間かかります。

当科では、数十年の歴史を経て、全ての手術書に記載された標準の手術方法をおこなっています。（評価が定まっていない新しい方法はおこないません。）

手術したあとの約2週の腫れと約4週の皮下出血斑は避けることができません。そのため手術日を決める際には、御自分のスケジュールを把握しておいていただき、支障のない日を選んでください。

形成外科は手術治療でしか眼瞼下垂症に関われませんが、皆様の視機能の回復のお役に立てれば幸いです。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: [chiki2@toyamah.johas.go.jp](mailto:chiki2@toyamah.johas.go.jp)